特別レポート

第17回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール表彰式

2020年12月28日、金融広報中央委員会は「第17回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」の表彰式を都内会場で開催しました。このコンクールは、毎年、全国の教育関係者の方々から金融教育に関する実践報告、研究結果、提言などを募集し、優秀な作品を表彰する催しです。本レポートでは、受賞作品の要旨および受賞者の方々からうかがった作品制作のきっかけや成果、今後の抱負などをご紹介します。

※ここでご紹介する特賞・優秀賞の各受賞作品の全文は、「知るぽるとWEBサイト」でご覧いただけます。
https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/2020/

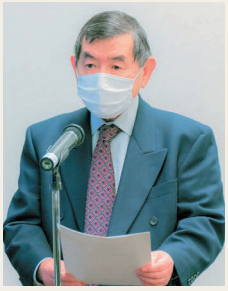
■コンクールの概要＆受賞結果

主催	金融広報中央委員会
後援	金融庁、文部科学省、日本銀行
応募資格	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・高等専修学校教員、教職課程在籍または教職を目指す大学生、大学院生、大学教官等研究者
今回の受賞結果	<小論文部門・実践報告部門> 特　賞：1編（賞状/賞金30万円） 優秀賞：2編（賞状/賞金15万円） 奨励賞：5編（賞状/賞金3万円）

■第17回 最終審査員（敬称略）

大杉 昭英	早稲田大学非常勤講師
神山 久美	山梨大学大学院教授
小関 禮子	帝京大学大学院客員教授
中村 新造	弁護士
向山 行雄	敬愛大学教授・こども教育学科長
小澤 泰山	NHK制作局第2制作ユニット（社会・文化）専任部長
林 新一郎	日本銀行情報サービス局長
武井 敏一	金融広報中央委員会会長

開催挨拶



武井 敏一
金融広報中央委員会　会長

コンクールの狙いの1点目は、わが国の金融教育の発展に資する優秀な人材を発掘・紹介することです。2点目は、優秀な入賞作品を広く公表することで、学校における金融教育の必要性をより多くの方々にご認識いただくとともに、教育関係者等に実践例としてご活用いただくことです。

今回の入賞作品では、長年にわたる充実した金融教育の実践の報告や、新たな視点に基づく金融教育の提案が見られました。また、金融教育のめざす「よりよい社会づくりに主体的に取り組む態度」を養う真摯な取組みや、金融の分野への果敢な挑戦が含まれ、金融教育が質・量両面で着実に発展してきていることを確認しました。

受賞者の皆さまには、今後とも金融教育の一層の広がりに向けてご尽力いただきますようお願いいたします。

実践報告部門

特賞

受賞作品

地域や企業と連携して行う会社体験活動

～12年間に及ぶ「天沼会社経営プロジェクト」の実践を通して～

12年間実践している「天沼会社経営プロジェクト」は、毎年本校の5年生全児童が主体的に模擬会社経営を行い、商品を製造・販売する教育プロジェクトである。地元の商店主や企業の社員による講話や職場体験の場を設け、一連の会社経営活動（会社の設立、市場調査、商品開発、製造、販売、資金調達、利益還元など）を行っている。将来働く際に生きる経験をさせることが、本プロジェクトの狙いである。2019年度に実践した「芳香剤販売の会社経営活動」を事例として報告した。

松野 泰一氏
東京都
杉並区立天沼小学校校長

新宅 直人氏
東京都
杉並区立天沼小学校主任教諭

山口 悠介氏
東京都
杉並区立天沼小学校主任教諭

川島 結香氏
東京都
杉並区立天沼小学校主任教諭

中島 寛人氏
東京都
杉並区立天沼小学校主幹教諭

「本物」を体験させるためにリアリティにこだわる

今回、素晴らしい賞をいただきとてもうれしく思います。この賞は、天沼会社経営プロジェクトの12年間の成果全体を評価いただいたものと受け止めております。地域運営学校である本校は、創立時より地域と密着したさまざまな教育活動を実践し、本プロジェクトもその一つとなります。学校の教育活動をサポートする組織の学校支援本部や地元の商店街など、地域の方々の支援があるからこそ本プロジェクトは成り立っており、改めて感謝の意をお伝えしたいと思います。

本プロジェクトの大きな特徴は、1年という長い期間をかけて「本物」の会社経営を体験することです。会社とは何か、商品を作って売るとはどういうことか、商品の値段はどうやって決めるのか、こうした会社を構成するさまざまな要素が、「本物」だからこそ深く理解できるようになります。小学生でこのような体験ができることは、子どもたちにとって大きなアドバンテージになると考えています。

子どもたちに「本物」を体験させるため、本プロジェクトの内容を改善してきました。まず、専門的な知識を持った地域の方が、品評会に審査員として参加してくれるようになり、子どもたちのアイデアに厳しい意見や質問をすることで、子どもたちがよりリアルな現実を実感できるようになりました。また、当初は教員が商品の方向性をある程度決めていましたが、今は子どもたちが自由にゼロからアイデアを考えます。こうした改善の結果、今回商品化した芳香剤のきっかけになった「家にある保冷剤を有効活用できないか」という、今までにないアイデアが生まれたと考えます。

子どもたちの自主性と教師の指導必要な場面を見極めることが大切

本プロジェクトでは、子どもの自主性に任せながら、教師がサポートし、時にはあえて助言せずに任せてみることが大切です。その見極めは難しく、子どもに任せ過ぎて思いもよらぬ方向へ行ってしまったこともあります。しかし、子どもたちに適切なアドバイスをして、それが子どもたちのさらなるアイデアにつながったときは、本プロジェクトに携わる教師として大きな喜びを感じます。

今後の取組みとして、本プロジェクトの実践内容やノウハウを他校に広めたいと考えています。学校の置かれた環境や事情はさまざまだと思いますが、地域と学校が連携した教育活動が全国でより多く行われるようになってほしいと思います。

（新宅 直人氏談）

●審査員の講評

「マーケティング、製造、販売の全プロセスを経て一つの製品を作り上げており、現代の会社組織の特徴である分業のメリットや収益を確保することの重要性などを小学生に実感させている。先生が変わっても活動が12年間続いているという継続性の高さも素晴らしい」として評価されました。

小論文部門

優秀賞

受賞作品

大学生ベンチャーと商業高校が連携した「リアル投資教育」

筆者は、先行研究から仮想現実による投資教育の学びには限界があると考え、①現実社会とリンク、②リスクを含有、③多様な専門家が連携、の３要件を満たす授業実践として「リアル投資教育プロジェクト」を立ち上げた。このプロジェクトは、大学生のベンチャー企業と商業高校が連携しており、まず大学生が株式を購入し、高校で投資の入門的な授業を行う。投資の知識を得た高校生は、ベンチャー企業に具体的な銘柄を提案。同企業は実際に株式を購入して運用し、高校生に結果を報告するという取組みとなる。

髙見 啓一氏
福岡県
日本経済大学准教授

今岡 啓一郎氏
三重県
三重県立四日市商業高等学校教諭

山城 朱理氏
福岡県
日本経済大学３年

リアルな株式投資への参加で学びの大切さとリスクを実感

このたびは大変栄誉な賞をいただき、実践しているリアル投資教育への自信が確信に変わりました。

私は商業高校でビジネス経済を担当しており、生徒たちに生の経済への興味や関心を持ってほしいと強く感じています。また、「貯蓄から投資へ」という社会の流れの今、投資教育もリアルな環境で学ぶことが重要であると考えていました。そこで、大学生のベンチャー企業を育成している髙見准教授と、「大学生の投資活動と高校生の学びを結びつけたい」という目的から、「リアル投資教育プロジェクト」を立ち上げました。

本プロジェクトは実際に大学生が投資するため、高校生は投資教育のバーチャル教材では得にくい「投資の実感」が得られるほか、学んだことが実際にどう生きるのかを理解することで、学びの大切さを実感することにつながると考えます。また、大学生は、高校生への指導に強い責任感を持つことで、投資に必要な知識を貪欲に吸収することができます。

投資教育と経済教育を結びつけ全国の商業高校に広めたい

ビジネスを教える高校・大学が能動的に、資産運用を考える力を持つ生徒・学生を育てることは、国民の金融リテラシー向上につながることであると考えます。今後も投資教育と経済教育を結びつけた本プロジェクトを発展させて、全国の高等学校にリアルな投資教育を広めていきたいと思います。

（今岡 啓一郎氏談）

●審査員の講評

「実際に株式を購入している点がこれまでの取組みと異なり、そのことによって切実なリスク認識や責任感が生まれている」と評価された一方、「株式購入資金や株価変動により生じる損失を誰が負担するのかが記載されておらず、広く普及するには課題が残る」とされました。

奨励賞 受賞者&作品（敬称略）

【小論文部門】

●これからの時代に求められる金融教育
～「小学校から学ぶリスクとリターン」～
田辺 昭浩（宮城県 亘理町立高屋小学校校長）

●新学習指導要領「公共」における投資教育についての試案
島本 優朗（東京都 広尾学園中学校・高等学校教諭）

●金融教育とＰＢＬのコンチェルト
～英語による模擬会社経営から得た金融スキルの向上～
難波 繁之（神奈川県 関東学院六浦中学校・高等学校教頭）

【実践報告部門】

●加工可能なフリーダウンロード消費者教育教材の作成と、家庭科の授業で行うクラス単位の消費生活相談員との連携モデル授業計画
～消費者教育の重要性を認知してもらうために～
石田 実里（埼玉県 埼玉県立三郷北高等学校教諭）

●ソーシャルビジネスの提案を通した金融経済教育
―持続可能な社会の形成者育成をめざして―
大塚 雅之（大阪府 大阪府立三国丘高等学校教諭）

実践報告部門

優秀賞

受賞作品

えーひだカンパニー Kidsの活動を通して比田の未来を考える

～えーひだサマーフェスタ出店プロジェクト～

中山間地域にある全校33名の本校において、6年生と5年生が総合的な学習の時間の中で、地元の活性化を企図する商品を開発。地域イベントに出店して、自分たちでその商品を販売するプロジェクトを実践した。子どもたち自身で商品開発からCM制作、開店作業まで行うことで、仕事への責任感や金銭を得る苦労を実感できると考える。1～4年生にとってプロジェクトに参画した5、6年生は憧れの存在であり、プロジェクトを継続していく重要な基盤になっていると述べている。

仁田 喜代子氏
島根県
安来市立比田小学校教諭

仮想ではない実働体験が大きな自信と達成感につながる

受賞にあたり、ご支援・ご協力いただいた地元企業の方々に感謝いたしますとともに、本プロジェクトの今後の指針になったことに喜びを感じています。

本プロジェクトは私が4年前に本校に赴任したころ、当時の5、6年生が地域の未来のために提案したいくつかのプロジェクトの実現に向けてスタートし、地元比田の会社と協働事業として取り組んでいます。子どもたちは、仮想体験ではなく企業との協働による実働を体験することで、仕事に対する責任や苦労を実感し、大きな自信と達成感を得ています。初めて地域イベントに出店した年、6年生の「考えて終わりだと思っていたことが実現した！」と喜ぶ声や、後輩に向けて「緊張するかもしれないけど、絶対楽しいし達成感も味わえるから、頑張ってね」と励ます姿は、何にも代え難い成果として印象に残っています。

広く発展する可能性を秘めた学習活動として

さまざまな地域課題を自分のこととして受け止め、その解決に向けて何ができるかを考えていくこの学習活動は、産業、福祉、防災など多岐にわたって発展していく可能性を秘めています。今後のプロジェクト継続に向けて、2年間の取組みを通して得た多くの「ひと・もの・こと」とのつながりを財産として、さらに組織的に取り組み、学校と地域に根づいた活動にしていきたいと考えています。

●審査員の講評

「地域に根づいた活動が高学年の責任感と自主性をうまく引き出し、下級生にとって高学年の活動が憧れの存在になっているという点が非常に良い。地元ケーブルテレビ用のCMを作るという活動の広がりと、地元の高校生の協力を得ることで地域とのつながりを深めている点が素晴らしい」と評価されました。

審査員代表による講評

大杉 昭英氏
早稲田大学非常勤講師

今回のコンクールでは、小学校で2020年4月から全面実施されている新学習指導要領に明記された「現代的な課題に対応するための資質・能力」や「教科横断的な学習の重視」といった観点を十全に取り入れた力強い作品が多数寄せられました。特賞、優秀賞を受賞された皆さまの優れた作品が広く取り上げられ、金融教育への機運がより一層高まることを願っています。

※次回の「第18回 金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」は、2021年6月ごろ募集開始予定です。